

日銀の視点

6月中旬に水戸事務所に着任しました。これまで茨城県との接点は、仕事やプライベートで何度か訪れたことがあるといった程度でしたが、住み始めてみると、豊かな街並みや自然、多彩な産業構造を持つ当地に早くも魅了され始めています。日本銀行の業務を通じて、茨城の発展に少しでも貢献できるよう取り組み所存です。

7月3日より、新しいお札（日本銀行券）の発行が開始されました。日本銀行の三つ

日銀水戸事務所長 稲見 征史

の役割として、発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行という分類を聞いたことがあるかもしれませんが、わが国における唯一の発券銀行として、お札を独占的に供給しています。お札には法律で強制通用

財布の中のお札が日本銀行券だけであるのが当たり前ですが、他の国では、同一地域内で複数の一般の金融機関がお札を発行している例もあつたりします。歴史や政治的な経緯から、お札の在り方も異なる

TMを通じて皆さんのところに届いたり、小売店のレジや交通機関の券売機などを通じて、順次流通したりしていくことになるわけです。このように、全国の金融機関や民間事業者の網の目のような供給

お札の社会的な意義

力が付与されており、誰もが、さまざまな経済取引に利用でき（汎用性）、相手方に引き渡すことによりその場で決済が完了する（支払完了性）など、キャッシュレス決済にはない特徴を有しています。ちなみに、普段生活していると

取ったお札は、津々浦々のA

力があって、円滑な流通が確保されていることを、改めて痛感します。

この機会に、新札のみならず、さまざまな観点からお札の社会的・経済的な意義につき関心を持っていただけたら幸いです。

（今回は8月10日）